

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	成田市			代表者名	小泉 一成
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	総務部行政管理課	連絡先電話番号	0476-20-1501
担当者役職	係長	担当者氏名	押尾 貴之	連絡先E-mail	
住所	286-8585 千葉県成田市花崎町760				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署			
担当者氏名		連絡先電話番号		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名	業務改革及びDXを推進するための意識改革研修
概要	地域情報化アドバイザーを活用し、職員に対する業務改革及びDXの推進に向けた意識醸成を図るための研修を実施する		
支援を求める分野	人材（DX推進のための機運の醸成）		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	有	471	令和7年9月25日	講演	実地
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年7月31日	講演(実地)	9時00分	16時30分	80
				活動時間（分）	370
2-2. 派遣場所	会場名	成田市役所本庁舎6階大会議室		最寄駅	京成成田駅
	所在地	成田市花崎町760		最寄駅からの交通手段	徒歩

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	池田 昌人	市役所では年間を通じて様々な研修を行っているが、本研修は非常に分かりやすく、所属部署を問わず全職員が興味を持てる内容となっており、他の研修と一線を画すものであると感じた。また、本研修では、意図的に資料を配布していないことに加え、アドバイザーの方も惹きつける話し方をされるため、参加者が常に前を向いて受講されている姿が印象的であった。6時間半に渡る長時間の研修であったが、クイズやゲームを行う参加型となっているため、楽しみながら内容を理解でき、これからの未来を担う若手職員にとって、非常に有意義な研修になったと感じた。
評価	大変良い	
上記評価の理由 （どのようなところがよかったか等詳細に）		
アドバイザーへの要望事項	今年度は、若手職員を対象に実施したが、全庁的に行政改革を推進するためには、管理職を含む多くの職員が受講することが望ましいと考えているため、次年度の開催も検討したい。	

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	51人	
	属性	自治体職員	住民	企業・団体
	人数	51		その他(学生など)
4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果				
事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）		全庁的にDXの必要性は浸透していると思われるが、具体的な実施方法が分からない、または日々の業務に追われて検討する余裕がないなどの理由により、積極的な取り組みが見られない状況である。こうした状況を抜本的に変えるためには、より多くの職員がBPRの必要性を認識し、各部署において小さな成功事例を積み上げていくことで、全庁的な意識改革を図っていく必要がある。		
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）		公務員という性質上、企画提案書のような資料を作成する機会が少なく、新たな事業の検討などを行う際のスピードが民間企業と比較して遅いのが現状である。こうしたことから、研修を通じて、民間企業ならではの斬新な発想と仕事の進め方を学び、職員一人ひとりの考え方に変化をもたらすことで、新たな取り組みを積極的に推進していける自治体を目指したい。		

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	決裁権者や人ごとの期待値を理解すること、また方向性が違う決裁権者を引き込むためには、効果分析表による優先順位を決定するなど、斬新な考え方や具体的な手法を学ぶことができた。また、個人や班ごとに参加するゲームを適宜実施しており、ゲームを通じて感じてほしいことをアドバイザーが伝えることによって、研修内容を面白く理解することができた。研修全体を通じて、職員が日々の業務において、自分の思いや企画を実現するための手法を学ぶことができたと感じた。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	受講者にアンケート調査を実施したところ、9割以上の職員が「満足」と回答している。意見の中には、「目標を持つことの重要性や伝えることの大切さを学ぶことができた」、「決裁権者の目線に立って資料を作成するように意識したい」、「企画立案する際の準備の大切や上司へのプレゼンテーションを行う際のテクニックを学ぶことができた」など、業務に前向きな気持ちになれた職員が多くおり、意識改革に関して一定の効果が得られたと感じている。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない 現時点では途中段階であり、具体的な成果物はない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	今回の研修を通じて、受講した職員の意識改革が図られたと感じているが、その思いをカタチにするには、意識が変わった職員からの提案や考え方を受け入れる組織体制が必要となる。そのためには、管理職や係長の意識改革を図り、全職員が業務改革という同じ方向に向かって進んでいく必要があり、定期的に外部講師による研修を行い、新しいことに取り組みやすい組織風土や意識醸成を図っていく必要があると感じる。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 受講者アンケートでは、9割以上の職員が「とても満足」または「満足」と回答しており、「まずは自分の上司を意識して、何を求められているか考えたい」や「日々の小さな業務から見直しを行いたい」などの意見もあったことから、研修を通じて職員の意識に変化があったものと感じている。	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	⑤その他 定期的に外部講師による研修を行うことで、新しいことに取り組みやすい組織風土や意識醸成を図っていく。
4-4. 事業の最終的な目指す姿	市役所では、毎年度職員の異動があり、担当業務や置かれる立場も変わっていくことから、意識改革に関する研修は、継続的に実施していくことが効果的である。そのため、引き続き、本制度を活用しながら、職員の意識改革やフォローアップを行うことで、職員の更なる成長に繋げたい。	

5.報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可		https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/
掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可	

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG等)」を数枚程度貼り付けて下さい。

